第1学年〇組 学級活動学習指導案

- 1 題材名 気持ちを言葉で表そう ～自分にも相手にも気持ちのよい伝え方～
「才 望ましい人間関係の確立」

2 題材について

(1) 生徒観

自分から進んで学級の仕事をやる生徒が多く、班活動なども協力して行うことができるが、リーダーシップをとれる生徒があまりいない。また、男女の交流が少なく、授業中の発表なども男子は活発だが、女子は、自分から発表することができる生徒はごくわずかしかない。全体的には穏やかな雰囲気だが、一部の生徒が友達に対して思いやりのない発言をすることがある。逆に相手を意識しすぎるために、何も言えない生徒もいる。

お互いに気持ちのよい伝え方をしようという意識が低いことが問題であると思われる。共通の学級内の課題を話し合い、課題解決のために目標を立て、学級全体で一緒に行動したり、共通の目標のために、個々の生徒が目標を立て前向きに取り組んだりすることで、互いに気持ちのよい伝え方をしようという意識を高めることが必要であると思われる。

また、本学級は話し合い活動の中で、意見を発表するのが苦手だと感じている生徒が多く、これまでの話し合いの中で、自分の意見が全く言えないまま話し合いが終わってしまう生徒も見られた。

(2) 題材観

本学級では人間関係を形成するに当たって、1学期にアサーションについて取り組みを行った。授業は、スクールカウンセラーと学級担任のチームティーチングによる授業形態で行った。具体的に日常の場面を設定して役割演技をし、そのときの自分や相手の気持ちを考えさせ、日常の会話の中での自分の言葉遣いを振り返らせた。期待していたよりも生徒は役割演技などを積極的に言い、そのときの気持ちを言葉で表現していた。

アサーションなどの学校の中で行われるスキル学習では、限られた時間で微妙な人間関係まで教えることは困難である。また、スキル学習は一般に一般化と持続に壁があると言われている。一度スキル学習で身に付けたスキルも別の状況や環境ではうまく機能しなかったり、同じ集団でも時間がたつごとにスキル学習以前の不適切な状況に逆戻りしたりしている場面も見られる。

本題材の「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方」をそれぞれの生徒が続けていくには、個々の生徒に必要なスキルを身に付けさせるとともに、学級内でそれらを使っていくことで学級の人間関係がよりよくなることを実感することが大切である。一人一人の生徒が学級集団に対する所属意識や自己肯定感を高める必要がある。気持ちよい伝え方を継続していきたいと思えるような集団づくりが必要である。そのためには、本題材を生徒の自治的な話し合いにより解決に導くことは、題材を自分たちの問題として共有化し、今後の学級生活をさらに豊かにしていこうとする意欲につながる好ましい題材であると考えた。

(3) 指導観

ア 話し合い活動を取り入れる意義

指導に当たっては、本題材を自分たちの問題として共有化し、自治的な話し合いにより解決に導くために、話し合い活動の形態を取りたい。また、話し合い活動の形態を取ることで、学級の諸問題を自分で見つけ解決しようとする意欲を高めたい。さらに話し合い活動の形態では、友達の考えを最後まで聞き尊重しようとする態度や、めあてを意識しながら自分の考えを整理したり、考えを分りやすく伝えたりしようとする態度も育てられると考えられる。

イ 事前指導

話し合いの柱を事前に知らせ、生徒に前もって考えをもたせておくことで、本時の話し合いに全員が参加できるようにさせたい。話し方に関する問題を学級内で共有化するためにアンケートを実施する。個人の問題だけでなく学級の問題として取り上げるためにアンケートを実施し、本題材について自分や学級を見つめたり、気付いたりする期間を設ける。取ったアンケートは授業の最初に紹介することで、何について話し合うかを明確にする。また、事前に考えていた自分の考えとアンケートの結果を比べることで、自分の考えと学級みんなの傾向を比べる時間を設けるようにする。

ウ 本時の指導

本研究の授業モデルでは、まず自分や学級の実態について話し合う時間を設けているが、本学級

の生徒がうまく話合うことにあまり自信がないことを考慮して、本時の指導に当たっては、「気持ちのよい伝え方ができているか」について生徒の書かせた文章を、体育大会の場面を背景とした映像や音楽と共にビデオで見せることで、今の自分や学級を振り返り、実態を共有化することにした。これにより、気持ちのよい伝え方に関する今の学級への問題意識をもたせると共に話合いの場を和ませたいと考えた。

次に気持ちのよい伝え方をすることの必要性を考えさせる。そのことで自分だけでなくみんなも気持ちのよい伝え方をすることが必要だと思っているという安心感をもたせたい。また、友達の意見を聞くことによって価値を高めるとともに気持ちのよい伝え方をすることの必要性に対する視野を広げたい。

そして解決策を発表させる。知恵を出し合うことで、自分の考えだけでなく友達の考えを参考にすることができるようにするとともに、自分のめあてを考える際に、自分に合った方法を友達の考えからも選べるようにする。最後に行動のめあてを掲示したり、宣言をさせたりすることで実践への意欲を高める。そのことで実践活動を行う際に声を掛けながら励まし合えるようにしたい。

エ 事後指導

帰りの会などの時間を利用し、取り組みについて発表したり、振り返ったりする時間を設けた。頑張ったことを友達から称賛されることで自己肯定感を味わい、今後の実践への意欲をさらに高めたい。また、友達のがんばりに目を向けることで、自分の周辺だけでなく、学級全体を考えて、孤立しがちな友達に目が向くようにしたい。本題材で気持ちのよい伝え方をすることについてしっかりと見つめさせることで気持ちのよい伝え方をすることのよさを強く価値付け、今後の実践へのモデルとしたい。また、そのことにより、みんなで何かに取り組みたいという意識が高まるようにしたい。

3 題材の目標

学級内における「言葉遣い」の問題を自分の問題として捉え、自分の気持ちをうまく相手に伝えることの大切さに気付くとともに、問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。

4 指導計画（*提→提案者，司→司会グループ）

	全体の流れ	活動のための支援	評価
事前活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちよい伝え方ができているかについてのアンケート調査（全員） ○ 題材決定（提案者） 「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方をしよう」 ○ 「伝え方」に関して学級の実態を把握する。 【第1回計画委員会（提・司）】 ・ 題材名の工夫と活動計画の作成 ・ 役割分担 【第2回計画委員会（司）】 ・ 話合いのめあて，柱を決める。 柱1 今の様子 柱2 必要性 柱3 解決策 ○ 活動計画表（原案）の配布。 【第3回計画委員会（司）】 ・ 話合い活動の準備と打ち合せ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちよい伝え方について学級会で話し合うことを知らせる。 ・ 提案者の思いを入れるために，計画委員と学級担任と一緒に考え，助言する。 ・ クラスの実態を報告するためのアンケートをまとめる。 ・ 計画委員と学級担任と一緒にめあてと柱を考える。何のための話合いかを提案理由を元に生徒と一緒に考え，話合いのめあてに生かすように助言する。 ・ 事前に原案を配布し，自分の考えをもたせておくことで話合いに意欲的に臨めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりすることに関心を持ち，自分の考えをもととする。 【関心・意欲・態度】
話合い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話合い活動（1／1，本時） <li style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「1－○全員が，男女仲良く，誰とでも話しやすい，活動しやすい状態にするにはどうすればいいか，みんなで考えよう。」 ○ 話合い活動の後に決めためあてを書く（自己決定）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級で取り組むことが決まり，係が必要な場合は係を決め，役割分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりするめの自分のめあてを決めることができる。【思考・判断・実践】
実践・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">9月21日から自分のめあてや学級で決めたことを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを意識して実践させるため，書かれた自分のめあてを教室に掲示する。 ・ 自己決定をしたことを基に個人として努力し目標の実現を目指した成果について振り返り，評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりすることの大切さを理解することができる。【知識・理解】

5 本時について

(1) 本時の目標

全員が，男女仲良く，誰とでも話しやすい，活動しやすい状態にする方法を学級全体で考えることで，今の自分や学級の実態を踏まえ継続して取り組めるような自分のめあてを決めることができるとともに，問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。【思考・判断・実践】

(2) 本時の展開

<p>題材</p>	<p>「1-0全員が、男女仲良く誰とでも、話しやすい、活動しやすい状態にするにはどうすればいいか、みんなで考えよう。」</p>	
<p>提案理由</p>	<p>1-0は、1学期よりもグループ活動や係活動などを協力してできるようになってきました。しかし、気の合う友達ばかりで分かれて活動することもあります。活動しているときに心ないことばを聞くこともあります。これから、今まで以上に誰とでも気軽に話せるようになったり、お互いの思いをよく伝え合いながら一緒に活動することができるようになったりすれば、さらに明るく絆の深い学級になれると思います提案しました。</p>	
<p>話合いのめあて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のいいところを自分の意見に取り入れ、クラスのためになる自分の目標を考える。 ・ 一人一回は発言をする。 	
<p>時間</p>	<p>話合いの順序</p>	<p>指導上の留意点 (◆は本時の評価)</p>
<p>6分</p>	<p>1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 題材と提案理由、話合いのめあての確かめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に司会グループと打ち合わせをし、話合いの進め方について理解を深める。 ・ 司会にめあてを読ませ、内容を全員で確認することで、めあてを意識して話合いに臨むようにさせる。
<p>6分</p>	<p>4 学級の現状の確認 気持ちよい伝え方ができているかのビデオを視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートをまとめた映像を見ながら、学級の現状を確認させる。 ・ 時間の見通しをもって話合いを行うために、残り時間の提示をする。
<p>10分</p>	<p>5 話合い 柱1 「気持ちのよい伝え方をすることはなぜ大切か。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちのよい伝え方について様々な考えを聞かせることで、気持ちのよい伝え方の大切さを実感させる。
<p>18分</p>	<p>柱2 「誰とでも、もっと仲良く協力するためにはどうすればいいか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を振り返り、今の自分や学級の実態に合うような方法を考えさせる。 ・ 個人でできることと学級全体でできないことに分けて板書させることで、その後の自己決定を行いやすくさせる。
<p>10分</p>	<p>6 決まったことの確認 7 話合いの気付き・自分のめあて</p> <p>8 グッジョブ賞の発表 9 先生の話</p> <p>10 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いの後、もっと協力するためのめあてを書かせることで、話合いの振り返りをさせるとともに、事後の実践活動への意欲を高めさせる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 今の自分や学級の実態を踏まえ継続して取り組むことができるようなめあてを話合い、振り返りカードに記入することができる。【思考・判断・実践】(カード)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会グループの生徒や話合いのめあてに沿って話合いに参加していた生徒を称賛することで、実践活動や次回の話合いへの意欲を高めさせる。